



### 令和4年度 地域の国際化セミナー

## 「故郷を後にする人々 ～共に暮らすわたしとあなた～」

昨年11月12日(土)に開催した「地域の国際化セミナー」。「難民」を取り巻く現状について理解を深めるとともに、多様な背景や事情をもつ人々とのように向き合い、地域で共に暮らしていけるかを考えました。

### 第一部 「紛争がもたらすものと、私たちができること」、「難民とは」



▲瀬谷ルミ子氏

認定NPO法人REALS (Reach Alternatives) 理事長の瀬谷ルミ子さんは、基調講演で「数字の向こう側にも、一人ひとりの人生がある」と語りました。同氏は武装解除(DDR\*)を専門とし、数多くの紛争地で平和構築の活動を進めています。REALSはアフガニスタンの国外退避支援も行っています。



▲REALS HP

故郷での夢や将来の希望をあきらめざるを得なかった「難民」や紛争地の現状は、日本で暮らす人々にも共感できることであり、難民の多くは「自分の子どもや孫の命を救いたい

一心で、限られた機会を活かして何とか辿り着いた人たち」で、ときには「日本という異教徒の国で教育を受けたという理由だけで、故郷を追われてしまう」こともあると、瀬谷さんは言います。

続く講演「難民を知る」では、認定NPO法人難民支援協会(JAR)代表理事の石川えりさんが、難民・避難民の現状やそれらに対する態勢について説明しました。「よく『難民問題』と言うけれど、難民が問題をもたらしたり、彼らに問題があるわけではない。私たち一人ひとりが構成する社会の問題です」という言葉が印象的でした。



▲石川えり氏

\*DDR: Disarmament Demobilization Reintegrationの略

### 第二部 パネルトーク「地域で共に暮らす、わたしとあなた」

第二部では、第一部の講師お二人に、NPO法人名古屋難民支援室(DAN)コーディネーターの羽田野真帆さん、シリア・ダマスカス出身の俳優ヤセル・ジャマール・アル・ディーンさんが加わり、パネルトークを行いました。

ヤセルさんは、自身の経験を通じて「普通の日本人」であることを期待されることがよくあった」としながら、「自分の生活や家族、友人を突然失くしたことで、言葉の壁や文化の違いが大きいことなど、そういう状況にある難民たちの気持ちにまずは寄り添って、心情をわかってほしい」と話しました。

また、羽田野さんは「自分にできる支援」にも触れるとともに、来日した時に、「電車に居合わせ

た人が自分に微笑みかけてくれたことが嬉しかった」という難民の声を紹介しました。

最後に、石川さんは、同じ私たちの中にも「多様性」があるとし、「『難民』という言葉に身構えてしまいがちだが、彼らと私たちとの共通点を見出し、「同じ」ことでつながり、それが日常生活で当たり前になることが、多様な人々と共に暮らすヒントになるのでは」と語りかけました。



若者も多く参加した今回のセミナー。講演終了後にゲストを取り囲む様子も、親子で参加する方々もいました。



難民をはじめ、さまざまな背景や事情を抱える人と共に暮らすためには、相手を知ろう、その人の現状を理解しようとする姿勢が大切です。そうして初めて、他者と向き合うことができるのではないのでしょうか。

## 名古屋と世界のつながりを実感!

### 名古屋市姉妹友好都市提携周年事業「フランス市とメキシコ市」



今年度、名古屋市との姉妹都市提携の周年を迎えるメキシコ・メキシコ市(45周年)とフランス・ランス市(5周年)。これを記念して昨年11月23日(水・祝)にオンラインイベントを実施しました。

第一部では両国出身のNIC地球市民教室講師\*が母国を紹介するほか、当日の「勤労感謝の日」に合わせ、それぞれの国の「祝日や休日」、「働き方」について話しました。



メキシコ出身講師  
アルameda アナメンドーサ  
クリスティーナさん

メキシコで有名な「死者の日」。11月1日と2日の両日、学校は休校となり、家族や友人が集ってパーティーをするなど楽しい祝日です。最近はハロウィンも加わって3連休になることも。

仕事を「生きがい」ではなく、「生活のため」と考える人が多いメキシコ。相手の気持ちを尊重し、無理なことでもはっきり「ノー」と言わない文化があります。そこは日本と似ているかもしれません。

「自分の意見を主張すること」を権利と考えるフランスでは、部下から上司に対しても意見をはっきり言います。労働時間や休憩時間など労働者の権利も労働組合により守られています。1か月程の長期休暇を取る人もいますが、休暇に入る前に仕事の引継ぎをしっかりと行っています。



フランス出身講師  
デュマバン フレデリックさん

\*NICが地域の小中高校などに外国人登録講師を派遣し、異文化理解を深める事業。

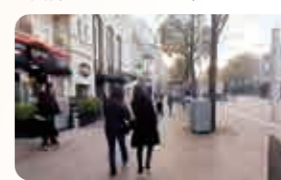
第二部では、ランス国際交流協会の協力による現地からの街歩きライブ中継を行いました。ランスの街の歴史や文化の解説を交えながら、リアルタイムで現地の様子をレポートしていただきました。



▲同協会メンバーの(左から)ニコラさん、ダニエルさん、小林さん(協会副会長、名古屋交流のチームリーダー)がレポート。



▲中継は朝のランス駅からスタート!カジュアルな服装で出勤する人が多いそう。



▲朝は人通りもまばらですが、老舗のレストランやテラス席を備えたカフェなどが軒を連ね、日中はとても賑わうそう。



▲駅前広場には、この時期だけのクリスマスモニュメントが!



▲街の近くを流れる4つの河川と勝利の女神を表した塔に到着。街歩きはここでゴール!

臨場感あふれるランスからの中継に「世界のつながり」を実感できるレポートでした。

## 第37回外国人芸術作品展(FAE37)を開催しました!

昨年11月1日(火)から6日(日)までNICで開催した「第37回外国人芸術作品展(FAE37)」は、外国人ボランティア団体「セントラル・ジャパン・インターナショナル・ソサエティ(CJIS)」が主催、NICが共催する毎年恒例の作品展です。37回目となる今回は、20か国57名の外国人アーティストが参加し、6日間の来場者がのべ約730名を数えました。約300点にのぼる多彩な展覧作品を味わいながら、参加アーティストの世界観や彼らの日本への視点を来場者とともに楽しむ交流の場となりました。



▲オープニングセレモニー



▲アーティストとの会話を楽しみながら作品を鑑賞中



▲名古屋国際センター理事長賞作品



▲CJIS賞作品とアーティスト



▲作品の一部